

臨床実習

概要

【概要】

臨床実習では、臨床基礎実習で修得した基本的診療についての知識、技能、態度を基盤として、それらの医療行為を患者に実践する。

【学修目標】

臨床基礎実習で修得した基本的診療についての知識、技能、態度を基盤として、各科ごとの医療行為を実践するための知識、技能、態度を修得する。

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

診療参加型臨床実習では外来での実習を行う度に電子ポートフォリオを作成し、診療の振り返りとコアカリキュラムに記載されたG領域ならびに水準1・2の項目について自己評価を行い、指導に送信する。電子ポートフォリオは指導医によって評価・添削され、指導医に完了を認められるまで修正を繰り返す。合格すると電子ポートフォリオは指導医によって承認され、臨床実習のケースとしてカウントされる。

各分野で設定されているミニマムリクワイアメントの修了、課題の完了、臨床実習後能力試験の合格を最低限合格ラインとし、ケース数、課題等の総合評価とする。

【教科書】

4年次までに使用した教科書、資料すべて
各分野の実習時には、別途配布する資料を使用する。

【学修の準備】

臨床基礎実習の内容について十分に復習する。（60分）

診療予定内容について十分に復習する。（60分）

各分野における【学習の準備】を実施する。（60分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

薬剤実習：薬剤師

診療参加型臨床実習：歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、看護師、介護福祉士

【実務経験を活かした教育内容】

大学病院、歯科クリニックでの実務経験を活かし、歯科保健・医療・福祉等の分野で、高度に専門化した歯科医療の実践するための教育を行う。